

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101827		
法人名	社会福祉法人 光塩会		
事業所名	グループホーム 菜の花		
所在地	前橋市上増田町1番地		
自己評価作成日	平成24年1月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成24年2月25日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活に張りを持っていただくよう、掃除、食事の支度、ゴミ捨て、皿洗い、烟作業等役割を持ち、今までの生活の延長、楽しく過ごせるよう支援しています。また、入居者の趣味を取り入れたり、楽しめる活動を見つけ、その人らしく安心して過ごせるよう、ボール投げ、卓球、ぴんしゃんリハビリ体操、書道など、色々な楽しみ活動に参加していただいています。天気の良い日は、季節を感じていただき、楽しみながら筋力低下の防止、生活リズムを保つよう散歩に出たり、地域行事に参加し、地域の方々との交流を楽しみに生活していただくよう支援しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①外部評価の結果を受け止め次のステップに向けて努力した結果が表れている。玄関の施錠については閉鎖的なイメージから脱却するためにもという思いでセンサーを取り付け開錠した。管理者や職員が話し合いながら、運営推進会議の場で家族にも説明をしその後職員は見守りを強化している。利用者や家族からの意見の反映には、用紙を配布したところ、意見が寄せられ集約でき効果が出ている。  
②ホームの特徴である地域の人達との交流が引き続き行われており、ボランティア等の資源の活用と地域の人に利用者が雑巾や雑巾マットを縫って配るという貢献活動も始まっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その人らしく、楽しく安心して暮らせるよう、関係性の継続、地域生活の継続を理念に入れケアしている。	新規採用者に対しては施設の機能を説明しながら理念を話している。地域の繋がりを大切に支援や楽しく明るく笑顔が出るように支援するよう共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り、文化祭、菊花展、敬老会、新年会等に参加したり、散歩の時などに会った方々とは挨拶を交わし、顔なじみの関係が作れるよう努力している。	地域の新年会に参加したり、老人クラブ・学生ボランティア等の訪問や図書館の利用・地域への雑巾や雑巾マットの配布等で、地域に施設の力を提供する考えを実践しつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加させていただき、グループホームのことや、認知症について相談を受けたり、お話をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告と共に参加メンバーからの意見、要望をうけ、サービスの向上に努めている。また、地域の情報を得て余暇活動などに取り入れている。	定期的開催し、利用者と家族の参加や自治会長・民生委員・行政が出席し入居状況や活動状況を報告し意見交換がされている。利用者からも意見が出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保険申請の代行を行ったり、分からない点の確認など、電話や直接行って話を聞くようにして、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	介護保険申請代行でケアマネジャーが行政に出かけているが管理者とケアマネジャーはそれぞれ情報の交換をして、その都度行政と連絡をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容を確認し、拘束の無いケアを目指している、職員数の少ない夕方から、朝にかけては玄関の鍵を閉めている。	ハード面で改造し、センサーを付け9時から16時まで開錠することが出来た。開錠することでのリスクの説明を家族に行ったが、家族からは開錠に関する苦情等は出ていない。職員は利用者の所在の確認をするよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作り虐待防止法の理解を深め、また、職員同士であっても見過ごすことの無いよう注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援制度や、後見制度などの理解を深め、それに該当するような質問を受けたときは、制度についてお話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明や、ケアの考え方を説明し、理解、納得を得るようにしている。また、随時質問を受ける旨もその際説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の会話だけでなく、利用者も運営推進会議のメンバーに入っており、そこでも意見を抽出している、また、意見箱用紙を玄関に置くだけでなく、郵送し意見を出してもらっている。	基本的には訪問時に家族に声を掛けているが、意見箱の用紙を家族に郵送してみたところ、家族から言葉使いや支援の内容等の意見が寄せられて希望が確認出来た。年に4回行う予定で意見を集約して日頃の支援に活かす様に指導している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、職員の意見要望を聞くよう心がけている。	管理者とケアマネジャーは職員に対して日頃から意見を聞いている。出された意見には互いに情報交換し検討している。誤薬をしない色分けの工夫や玄関の開錠に際しての見守り等の検討をして反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に来て、職員の勤務状態を把握し、向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場に来て職員1人ひとりの力量を把握し、その職員に合った研修に参加出来るよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連協の研修に参加したり、相互訪問活動を行い、サービスが向上するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の状態や、本人の思いを良く聴き、受け止めて、安心してもらえるよう努めている。また、入居前に施設を見ていただき、施設の雰囲気を感じていただき、不安無く入居出来るように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていることや不安、今までのサービス状況などを良く聴き信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の要望や状況を確認し、必要に応じて、出来る限りの対応に努め、場合によっては、他のサービスに繋げるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や畑作業、洗濯たたみなど利用者の得意分野で、利用者さんに教えてもらう場面作りや、声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時に利用者さんの様子や、職員の意見を伝え、一緒に本人を支えて行くための関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人友人が訪問時、継続的な交流が出来るよう働きかけ良い関係が保てるよう努めている。また、関連施設に訪問し、退去された方とも交流を維持している。	新聞を用意している。美容院や買物で馴染みの所に行っている。入居前の地域の委員を継続するような支援をしたり、家族との外出や七夕飾り・お見舞いや退居者を訪ねたりと顔なじみの関係を継続させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく過ごせる時間や、役割活動を通じて良い関係が保てるよう、職員も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業者へ移られた方の所に、利用者さんと一緒に会いに行ったり、家族からの相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のケアの中で、希望を伺ったり、言葉や表情などから、意向を把握するよう努めている。	普段の会話の中から把握したり、遠慮してなかなか言い出せない人には雑談の中から聞いている。担当制をとり、聞いたり・推察した意向はカンファレンスで職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、ご家族から生活歴や暮らし方等を聞き取り、入居後も日々のかかわりの中で、話を聴き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方、生活リズムを理解し、日々の暮らしの中で、出来ること、分かることを見つけその人の全体像を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から日々の係わりの中で意見を聴き反映させている。また、日常ケアの中で気づき、意見を職員間でカンファレンスし、介護計画の見直しをしている。	月に1度のモニタリングを参考に随時と3ヶ月に1度の介護計画の見直しを行い、プランに添った記録を残すよう指導している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子、気づき、状態変化等を個別の介護記録に記入、個別の記録を元に職員間で情報を共有し、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な場合は柔軟に対応し、個々の満足度を高められるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等に自治会長、民生委員に参加していただき、意見交換をする機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所に協力医の他に、本人、ご家族が希望しているかかりつけ医を受診してもらっている。	希望により事業所の協力医の支援を受けているが、かかりつけ医の継続支援も行われている。必要時に往診支援がある。専門医の場合は家族の受診支援となっているが職員の支援も受けられる。訪問歯科支援もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面での疑問や、不安を感じたときは、協力病院の看護師や、関連施設の看護師に協力、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師、看護師、相談員、ご家族と情報交換や話し合い、退院後の準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合について入居前に説明し、状態の変化がある毎に本人、家族の意向を確認し支援に繋げている。また、医師、看護師等と連絡を取り、事業所の出来ること、出来ないことを職員間で話し合いながら支援に取り組んでいる。	希望により介護度が高くなったり、夜勤体制等もあり、医療的処置が必要になった場合を視野に入れ、重度化になった場合は特別養護老人ホーム等の入所も検討している。事業所の指針を昨年話し合い作成した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの講習を受けたり、緊急時の対応マニュアルを活用し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	設備の点検を定期的に行い、消防署立会の避難訓練を年2回行っている。また、独自の訓練も定期的に行っている。 地域の方にも地域協力員として非常時は協力体制を整えている。	年に2回昼夜想定で行っている。地域住民の参加はないが運営推進会議時にメンバーに見学してもらっている。22～23人ほどの地域協力員が登録している。自主訓練をレクリエーションのように行っている。備蓄は水とパン等が2～3日分ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のかかわりや、毎日のミーティングで確認しながら、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応を行っている。	書道の展覧会出品で力を発揮して評価を得ている利用者がある。お化粧をしたり整容も気をつけている。起床時間も制限していない。言葉使いや排泄時の声かけなどの工夫を行っている。職員同志は声掛け等でお互いに注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションを重視しながら、毎日の楽しみ活動でやりたいことを決める場面を作ったり、運営推進会議で希望を聞き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や希望に配慮し、入居者のペースに合わせてケアしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて化粧をしたり、また、訪問美容室が来た際は、希望に応じて利用したり、家族と一緒に馴染みの美容室へ行くこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に買い物に行ったり、メニューを決めたり、調理、、盛りつけ、片付け等を行い、食事が楽しみの場になるよう時折席替えなどを行いながら支援している。	利用者の好きなものを取り入れながら献立を作っている。野菜と魚と米は業者に頼んでいるが他のものは一緒に3日に1回買物に出かけている。野菜の下ごしらえに参加してもらい、検食者のみ一緒に食べている。「おいしい」と言ってくれているが、残食を見ながら職員は評価している。	利用者と職員が作ったものを、職員も一緒に味わえるように努力して欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の嗜好を考慮しながら提供を行い、水分や食事の摂取量を記録に残し、水分不足や、食事摂取量の低下時は早めに対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、見守り、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄、見守り、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら排泄のリズムやサインをつかみ、トイレで排泄出来るように支援している。	チェック表を用いて個別のリズムとその人なりのサインで誘導している。夜間起きてきた場合には誘導している。パット等は利用者が管理出来る人にはしてもらっている。パット等は事業所で用意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に向けて、乳製品や繊維質の多い食材を取り入れている、また、体操、家事活動、散歩等適度な運動をする機会を作り、自然排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴の他に必要に応じて入浴を行い、入浴を拒む人には職員を変更したり、言葉掛け、様子、タイミングに注意しながら対応している。また、入浴剤を色々用意し、楽しめるよう工夫している。	毎日13時から16時に入浴している。入りたければいつでも入浴出来る体制はあるが、ほとんど週に2回の入浴である。汚れた場合は入浴している。ゆず湯や入浴剤を使用している。	入浴後に当日入浴していない利用者に入浴出来る事をアナウンスしてみたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中は運動、散歩等の活動を促し、夜間眠れるように配慮している。眠れない利用者にはお茶を勧めたり、少しの間一緒にお話するなどしてから入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の内容説明で内容を把握し、服薬時は本人に手渡したり、食事のお盆の上に名前を呼びながら置き、服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、ゴミ捨て、食事作り、皿洗い、おやつ作り、畑作業等、入居者の力を発揮出来る様な場面を作ったり、買い物、外出、歌、書道などの楽しみごとが見つかり、気晴らしが出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人の希望に応じて、散歩や買い物、外食、慰問の見学などの支援を行ったり、家族に連絡し馴染みの買い物先へも行くよう支援している。	日常的には散歩や朝の掃除・庭に出てじゃがいもの植え付けや洗濯物干し・向かいの法人の慰問のお楽しみに出かけている。ドライブや梨狩り・外食や買物・図書館に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の現金所持はないが、個人の物品買い物時は、職員付添の元、お金を渡し支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話対応や、年賀状など今までの繋がりを大切に出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵、観葉植物、花を飾ったり、正月やお雛様などの季節の飾り付けを行い、家庭的な雰囲気作りをしている。	広いホールにはソファとテレビが置かれ、お習字の作品や繭玉が飾られている。テーブル席からは広い窓の外が見える。犬が飼われて来客が来るたびに吠えて利用者に知らせている。果実が生っていて楽しませてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にダイニングテーブルやソファを置いたり庭にベンチを置き、気の合った物同士で、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や、好みの物、写真等をお持ちいただき、安心して心地よく生活出来るよう工夫している。	自宅で使い慣れたもの(タンスやテーブル)やお位牌や飾りもの、写真や賞状、日頃の作品などが置かれている。ベッドと造り付けの整理戸棚が用意されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの、出来ること、分かることを日々の生活の中で見極め、危険な物品は移動したり、入浴時は滑り止めを使用するなど配慮している。		